



地球回覧



トマト、トウガラシ、カボチャ……。色とりどりの野菜が実りの季節を迎えたことを知らせている。麦わら帽子をかぶった農民たちは、雑草の抜き取り作業に忙しい。

中国・上海市。空の玄関口、浦東国際空港の近くに、その農場があった。運営するのは多利农庄。100万平方メートルの広大な農地で、有機栽培の野菜を作り、市中心部に住む富裕層に送り届ける。

2億5千万円(約32億円)を投じ、3年あまりかけて土壌を改良。有機野菜の栽培、直販を始めたのは2009年で、季節ごとに30種類以上の野菜を作る。今や上海市内だけで会員は1万件、今年10月には

稼ぐ農業、中国で改革



農業も化学肥料も使わないため、雑草の抜き取り作業は欠かせない(上海市内の多利農主の農場)

民間投資、大規模化促す

北京にも進出する。「今後3〜5年で上海と北京で各10万件に会員を増やし、年商20億元を目指す」。創業者の張同貴董事長は意気軒高だ。

上海から西南へおよそ200キロの浙江省杭州の農場では昨年、循環型農業を実現した。250万平方メートルの敷地内に養豚場、スッポンの養殖池、ナシなどの畑が広がる。経営する浙江藍天生態農業開発の張建平・公司弁公室主任

の成育を助け、ナシの栄養分になる。発酵時に出るメタンガスで発電した電気は農場から出る排水処理に使う。

多利农庄の張董事長は鉱物貿易や四川料理店チェーンで財をなした起業家。藍天生態の経営者は金融業を営む実業家だ。2人の民間企業家はなぜ、農業を始めたのか。

「安全な食品に対する需要は広がる。潜在力は大きい」(張董事長)。急速な工業化で土壌や水の汚染は進み、農

作ればもうかる。そう見る民間企業家が増えている。

調査機関の清科研究中心によると中国の農林業や畜産、漁業を対象としたベンチャー投資額は11年に9億4千万円(約750億円)、10年に比べ11・7%増えた。件数では2倍増の83件。多利农庄でも「6つの投資機関から3億元を得ている」(張董事長)。

こうした民間の動きが中国農業が抱える構造問題を改善するとの期待も高まる。

だ。貸賃料を支払って土地の使用権を借り受け、農民を従業員として雇うのだ。農民は引き続き農作業に従事する。

多利农庄の場合、1ムー(約667平方メートル)あたり年1千円の土地使用料と約2千円の月給を支払う。「安定した収入を得られる実績を見て、自ら使用権を譲渡してくる農民もいる」と張董事長は言う。

6億5千万人の農民を抱える中国では農業の近代化と農村の発展、農民の豊かさ向上という「三農」の課題が中国共産党・政府に重くのしかかっている。党・政府は、その年の最重要課題を取り上げる「中央1号文件」で、04年以来、毎年、農業問題を取り上げ、農民の1人当たり年収を2倍超に引き上げた。今年も1兆元(約13兆円)を上回る国家予算を三農問題に充てる。

は得意げに言う。「ここでは廃棄物はほぼゼロです」。

飼育する年2万頭の豚のふん尿を発酵させて作った土壌がスッポンの餌となるミミズ

家は成長促進剤や抗生物質を使わずに収穫を急ぐ。一方で所得水準が向上し健康志向を強める消費者も増える。コストをかけてでも安全な農産品を

零細な農地の集約化だ。中国では土地の私有を認めていない。農民は土地の使用権を得て、農業を営む。その土地が狭い。1人あたり0・1畝弱で世界平均の4割という。

中国政府は使用権の譲渡や貸賃などを通じて農地集約を後押しする法制度を03年に施行したが、使用権を手放すことに農民の抵抗感は根強い。「いかに農地を集約し、工業化するかは大きな課題」と呉平・浙江大学教授は指摘する。

民間企業はそうした現状に市場経済の手法を持ち込ん

国が巨費を投じて農業の近代化を進めるには国土はあまりに広い。新たな活力を与え民間企業の役割もまだまだ限定的だ。それでも、中国農業が一步、一步、前に踏み出していることには違いない。

(上海＝菅原透)

終値ベース)

日移動



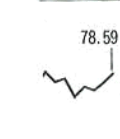
6 7

12822.57



6 7

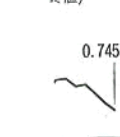
78.59



6 7

終値)

0.745



6 7

込む

引込まれ
引回りは
更新

中国种植农业的改革

(《日本经济新闻》2012年7月22日报道)西红柿、青椒、卷心菜……色彩鲜艳的蔬菜迎来了丰收的季节，戴着草帽的农民们正在田间忙着除草，这是中国上海市浦东国际机场附近的一个有机种植基地，经营这片基地的是多利农庄。在超过100万平方米的广阔田地里种植有机蔬菜，配送给生活在市中心的富裕阶层。

投资2亿5千万元人民币，历时3年多的土壤改良，从2009年开始有机蔬菜直销，每个季节栽培30种以上的蔬菜。现在仅上海市内就有超过1万名会员。“我们计划今年10月打入北京市场，今后3-5年内在上海和北京的会员分别增加10万，年销售额达到20亿元人民币。”多利农庄创始人张同贵董事长信心满满地说。

位于上海西南方向约20公里的浙江杭州有一家农场，去年实现了循环型农业。在超过2500万平方米的场地内，有养猪场、甲鱼养殖池和梨子种植园，运营方浙江蓝天生态农业开发公司办公室主任张建平自豪地说，“我们这里的废弃物为零。”这里饲养的2万头猪的排泄物发酵之后做成土壤，给梨树提供营养，同时借助土壤中蚯蚓的作用，帮助梨树吸收养分。蚯蚓又是池塘中甲鱼的饲料。发酵时产生的甲烷气体发出的电，可以用于农场的排水处理。

多利农庄的董事长张同贵靠矿物贸易和川菜餐馆赚钱起家，蓝天生态的经营者是金融业实业家，这两位民营企业家为什么要开始农业项目呢？“现在对安全食品的需求很大，潜在市场更大。”张同贵董事长说。

急速的工业化进程中，土壤和水的污染加重，农民使用化肥和抗生物物质来达到获取利润最大化的目的。另一方面，随着人们生活水平的提高，重视健康生活理念的消费者群体也在增大，所以，如果投入大成本做出安全的农产品，就能盈利。有这种观点的民营企业家也在增加。根据专业调查机构清科研究中心的统计，以中国农林业、畜牧业和渔业为对象的风险投资，2011年为9亿4千万美元，与2010年相比上涨11.7%，多利农庄也从6个风投机构获得了3亿元人民币的风险投资。”张同贵董事长说。

这样的民间动向，让人更加期待中国农业结构问题的改善，将零散的田地集中化。中国不认可土地私有化，农民在获得土地的使用权之后才可以务农。但获得的土地很小，人均耕地面积少于0.1公顷，只能达到约世界平均水平的40%。2003年开始，中国政府通过转让和租赁土地使用权等方式进行改进，但对使用权的撒手不管让农民表示抵触感很强。浙江大学的吴平教授指出，“如何集中耕地，如何进行工业化是一个大的课题。”

民营企业在这种现状下支付租金，获取土地的使用权，雇佣农民作为职员，农民也能继续从事农耕地。在多利农庄，平均一亩地一年的土地使用费为1000元人民币，人员工资每个月约2000元人民币。张同贵董事长说“有的农民看到能够获得稳定的收入，主动来跟我们谈，希望转让土地的使用权。”

拥有6亿5千万农业人口的中国，农业现代化、农村的发展、农民的收入提高这个“三农问题”是中国共产党和中国政府的重要课题。中国共产党和中国政府从2004年以来，在汇聚中国最重要问题的中央文件中都有农业问题的课题，并且将农民的人均年收入提升了超过两倍。今年也将会有超过1兆日元（约合近700亿元人民币）的国家预算投入到三农问题当中。

中国正在投入巨资推动农业的现代化，但是因为国土太大，所以能够带来新型农业活力的民营企业的作用也是相当有限的。但是尽管如此，中国农业必将一步步地向前迈进。